

「Face-To-Faceの会」だより

大阪市大における医療連携プログラム

第十七号 2011年 11月 発行：大阪市立大学病院「Face-to-Faceの会」 文責：荒川哲男(世話人代表) 連絡先：06-6645-2857 医事運営課 西野広宣

時代はAKBからCKDへ！

11月19日(土)の、秋冷えのする、激しい雨の中、**第17回**の『Face-To-Faceの会』が開催されました。あまり興味のない日本シリーズが、今日終わるとすれば、ソフトバンクが福岡で秋山監督を胴上げすることになります。雨にもかかわらず、60名を超える参加者がありました。さて、今回から、新しく設けられた**市大病院医療連携登録医(後述)の資格要件に、本会の受講証が必要**になります。



症例から：ふた子には注意を！

呼吸器内科の平田一人教授の司会で「症例に学ぶ」が始まりました。まず、産婦人科の大学院生 栗原 康先生から、**双胎間輸血症候群の症例が提示**されました。双胎間輸血症候群の症例が提示されました。「なんじゃ、それ！」という聞きなれない病名に、参加者は興味津々。要するに、胎盤を共有する双子(MD双生児)の場合、**二児の間に胎盤吻合血管が必ず存在し、血流のアンバランスが生じてしまうことがある**。血液が取られる方は、貧血や発育障害が起こり、過剰にもらう方は循環過多に陥り、**両児とも命の危険にさらされてしまう**。MD双生児の頻度は1/400で、その10%にこの症候群が発生するので、それほど稀有な出来事でもなさそうです。**内視鏡的に吻合血管をレーザーで凝固する方法が最近できるようになりました**。この方法で、両児間の血液の交流を遮断でき、**根治的な治療**ができるようになりました。



また、**妊娠期間の延長**も図れるようになっていきます。石河教授の心配顔をよそに、卒後4年目という栗原先生は、さっそうと質疑もこなしていました。



症例から：やけどをきれいに治すには？

次いで、形成外科の原田輝一准教授から、**足背熱傷の症例が提示**。半年ほどたって、肉げが盛り上がり、肥厚化してから紹介されてこられたそうです。こんな場合、**スポンジで弱く圧迫を続けると、盛り上がり平坦になり、見栄えが良くなります**。早ければ早いほどいいそうです。足背は傷が深くなりやすいので、**可能なら入院して下肢挙上と圧迫がベスト**だそうです。指の場合は、とくに小児では屈側が熱傷すると、数カ月後に屈曲拘縮するので、事前に圧迫して治療することが勧められました。最近話題の熱傷の治療薬として、**フィブラストスプレー(bFGF; 線維芽細胞成長因子)が高い効果を発揮している**ことが報告。さらに、**ラップ療法**は安価で効果もあり、汎用されているが、**過剰な滲出液があると、maceration injuryという「浸出液傷害」を起こす危険性**があり、感染も起こしやすくなるので注意が必要と。



(1)

さて、ミニレクチャーは、『慢性腎臓病(CKD)の新しい診かたと治療』と題して、腎臓内科病院教授の石村栄治先生が熱く語られました。ここに冒頭のキャッチコピーがつながるのです。今、CKDが熱い！

近年、CKDが増加の一途を辿り、現在の透析患者数は本邦で30万人に達すると。年間の透析費用は1兆4千億円に登る。原因は、糖尿病の増加に伴う糖尿病性腎症がトップ。治らないとされていた糖尿病性腎症でも、早期発見すれば治る、と石村先生は力説する。レニンアンジオテンシン系の抑制、血糖・血圧コントロールがキーを握る。

CKDが注目される理由のひとつに、最近、心血管イベントの危険因子であることが分かったことがあります。CKDの程度は動脈硬化の程度と相関し、メタボリック症候群や高血圧、貧血とも関連し、相互に悪影響を与えているらしい。実際、高血圧の程度が強いほど、透析になるCKDが多い。昔は、血圧を下げすぎると、腎血流が減って腎不全が進むとされていたが、今はThe lower, the better。「下げ過ぎぐらいが、丁度いい♪」っか。

CKDとして、市大病院腎臓内科に紹介いただくタイミングとして、下記の2点を掲げて講演を閉じられました。

1. 蛋白尿、血尿3ヶ月異常
2. eGFR<40(Cr値と年齢から換算できる簡易表あり)



慢性腎臓病(CKD)の診断と治療

- CKD is common, 約1300万人
 - CKD is treatable(透析回避). 心血管病の回避。
 - 蛋白尿、血尿、Cr上昇なら、一度は専門医へ紹介
- 高血圧治療がかなめ 130/80未満
 - RA抑制薬、多剤併用、The lower, the better.
- [食事療法] 減塩6g/日が第一
 - 次に、減蛋白食。
 - Caを多く、リンを少なく、ビタミンDを多く。
 - 鉄分を多く、EPO使用を早く開始
- 糖尿病はHbA1C<6.5%
 - メタボに注意、LDL-C<120
- 薬剤の減量、腎障害薬剤への注意
 - フィブラート、NSAIDs、ビタミンD過量、抗生剤、タミフル過量

情報提供コーナー:大阪大腸がんセーフティネット(SNOCCO)について

消化器内科の渡辺憲治先生から、SNOCCOの紹介がありました。便潜血陽性などで、大腸検査が必要な患者さんを、SNOCCOに登録されている近隣の病院に紹介していただくと、検査も早くでき、高度先進医療などの適応があれば、当院で対応するというセーフティネットです。当院HPトップページの矢印のところをクリックしてみてください。



市大病院医療連携登録医制度が発足

この制度は、なんとといっても初診外来の予約を24時間いつでも申し込めるシステムが利用できるのがメリットです。実地医家に朗報かも。詳細は本病院HPで。

アフター5でFace-to-Face

勉強会終了後の懇親会は、畑先生(住吉区医師会会長)の乾杯の音頭で始まりました。懇親会の場も定番となった宝塚ホテル直営の「パティオ」で、おいしい料理を楽しみました。黒服が目立っていたので、次回から、カジュアルなスタイルでの参加を呼びかけようと思います。



医療連携勉強会のお知らせ

第18回『Face-To-Faceの会』

- ・症例:2題 第2外科、第2内科
- ・ミニレクチャー:麻酔科 教授 西川精宣
- ・日時:平成24年2月18日(土) 午後3時~5時
- ・会場:大阪市立大学医学部附属病院5階 講堂
- ・参加対象者:大阪府医師会会員、看護師、研修医、医学生

市大病院医療連携登録医への申請に参加証が必要です。